

(社) 大日本水産会/日本脂質栄養学会共同開催

「おさかな食べようネットワーク」交流・シンポジウム プログラム

開催日：平成24年6月29日(金) 13:20-16:30 (開場：13:00)
場所：三會堂ビル9F 石垣記念ホール
タイトル：『なぜ、魚食が大切か ---魚ばなれに緊急提言---』

13:20-13:30 開会あいさつ (社)大日本水産会 重 義行専務
日本脂質栄養学会 鈴木 平光理事長

講演の部

13:30-13:50 「魚離れをどう捉えるべきか」：
水産庁増殖推進部研究指導課(普及・育成班)
上田 勝彦 情報技術企画官

13:50-14:10 「日本人の疾病動向(罹患率の変動)」：
医学博士、富山大学和漢医薬学総合研究所
浜崎 智仁 元教授

14:10-14:30 「DHA・EPAの胎児から老人までの有効性」
医学博士、女子栄養大学栄養学部
鈴木 平光 教授

14:30-15:20 パネルディスカッション 第一部
『もっと魚をたべよう!!』
コーディネーター：山田 麻未(女子栄養大学大学院、管理栄養士)
パネリスト：上田 勝彦(水産庁情報技術企画官)
浜崎 智仁(富山大学元教授)
鈴木 平光(女子栄養大学教授)

(休憩 10分間)

15:30-16:30 パネルディスカッション 第二部
『なぜ、若い世代・子育て世代の食卓に魚料理がのらないのか？
---食べるにはどうすれば良いのか、ネットワークにできること---』
コーディネーター：二瓶 徹(財団法人食品産業センター振興部主事)
パネリスト：葉 美佐子(主婦)
山口 晃汰(学生/法政大学社会学部)
細川 良範(ネットワークメンバー、経営コンサルタント)
池田 智子(コープとうきょう組合員理事)
宮本 博紀(おさかな食べようネットワーク事務局)

共催：(社)大日本水産会、日本脂質栄養学会

後援者(予定)：水産庁、(財)農林水産奨励会、フードアクションニッポン、おさかな普及協議委員会各社(株式会社マルハニチロホールディングス、日本水産株式会社、株式会社ニチレイフレッシュ、株式会社極洋、全国水産物卸組合連合会、全国水産物商業協同組合、全国水産物加工業協同組合連合会、全国中央市場水産卸協会)、JF全漁連、東京都農林水産部水産課、愛媛大学南予水産研究センター、農林省関東農政局消費安全部、東京都栄養士会、全国消費者団体連絡会、コープネット事業連合、海の幸に感謝する会などを予定

開催と講師紹介について

開催日が「おさかな食べようネットワーク」設立後5ヶ月を経過することになることより、活動の進捗評価、課題を抽出、会員の意見交流を行い、今後の魚食普及推進活動の連携・協働体制を促進する機会と致します。

また、歯止めがかからない魚離れの現状に対し、食の栄養学の観点から危惧を抱く日本脂質栄養学会から緊急提言をしたいという提案があり、共同で行事設計を行うことと致しました。タイトルを「なぜ、魚食が大切か---魚ばなれに緊急提言---」として、三人の講師によって魚離れの現状の考察、海洋国日本における魚食の健康への優位性、魚の脂質・栄養、効能をお話しして頂きます。その後、パネラーを交え、ネットワーク会員他の参加者、魚ばなれ現状への認識、魚食普及への意見交流を行い、今後の活動指針を探ることと致します。

1. 講演・パネルディスカッションの部 講師・コーディネーター紹介：

(1) 「魚離れの現状をどう捉えるべきか」

水産庁増殖推進部研究指導課（普及・育成班）情報技術企画官 上田 勝彦氏

長崎大学水産学部を卒業、漁師経験後、1991年水産庁入庁、2003年より境港漁業調整事務所、2011年より現職。上田企画官は自らも魚食普及へのRe-Fishという仲間ネットワークをつくり、生産者から販売者を結ぶ中、水産業、市場の現場情報を多く持たれている。今回の講演では魚離れ現状を打破する魚食普及活動の課題をお話し頂きます。

(2) 「日本人の疾病動向（罹患率の変動）」

富山大学和漢医薬学総合研究所 元教授・医学博士 浜崎 智仁氏

魚油と栄養に関する研究歴が長く、3月末で現職から退任された。1971年千葉大学医学部卒業後、同大学大学院医学研究科へ。1974-78年米国マサチューセッツ工科大学留学、千葉大学医学部第二内科に勤務後、富山大学和漢医薬学総合研究所に勤務。研究分野は脂質栄養学、研究テーマは多価不飽和脂肪酸に関する臨床試験と疫学調査漢方剤の臨床研究。1999-2010年12月まで日本脂質栄養学会理事長。今回は、日本人の疾病動向と魚油の観点からのお話し頂きます。

(3) 「DHA・EPAの胎児から老人までの有効性」

女子栄養大学栄養学部 医学博士・教授 鈴木 平光氏

1974年東京水産大学卒業後、農林水産省食品総合研究所を経て、2006年より女子栄養大学教授。専門分野は水産食品学、衛生学、脂質栄養学。DHA、EPA研究の第一人者であり、研究課題は魚類脂質の健康維持・増進効果。「魚を食べると頭が良くなる」「メタボリック症候群と栄養」など著書多数。2011年1月より日本脂質栄養学会理事長。

今回は、魚類脂質が健康に大きな貢献をするにも関わらず、魚介類摂取減少の現状に大いなる懸念抱かれており、魚離れが健康の阻害要因に成りかねないという観点から、魚食の大切さをお話し頂きます。

(4) 『なぜ、若い世代・子育て世代の食卓に魚料理がのらないのか？』

---食べるにはどうすれば良いのか、ネットワークにできること---

財団法人食品産業センター振興部 主事 二瓶 徹氏

日本大学大学院農学研究科、法政大学大学院政策科学研究科修了。専門は食環境整備(都市社会学)、地域食品ブランド論。全国の食品企業による食育推進をはじめ、近年では異業種連携による「ソーシャル・ビジネス」モデルの構築。食と農を軸にした「コミュニティ・ビジネス」の推進を行っている。2009年から法政大学大学院「食と農」研究所特任研究員、2012年から東京家政学院大学非常勤講師。今回は、パネルディスカッション第二部のコーディネーターを務めて頂き、魚食普及の現状と課題、ネットワーク活動の方向性につき参加者の意見交流を進行して頂きます。

2. パネルディスカッション 第一部

緊急提言講演の取りまとめとして、『もっと魚を食べよう!!』として、限られた講演時間では語られなかった部分、講演者への率直な質疑を行うことで、出席者とともに魚を食べることの深ぼりを行います。

コーディネーター： 山田 麻未 (女子栄養大学大学院、管理栄養士)

パネリスト： 上田 勝彦 (水産庁情報技術企画官)

浜崎 智仁 (富山大学元教授)

鈴木 平光 (女子栄養大学教授)

3. パネルディスカッション 第二部

第二部では講演の部、パネルディスカッション第一部討論を受け、ネットワーク最大課題である魚食普及に焦点を当て、「なぜ、若い世代・子育て世代が魚を食べなくなったのか？ 食べるにはどうすれば良いのか？」、ネットワークが出来ること、やるべきことについて討論します。

魚食については、食育問題、生活スタイルの変化、家庭内個食、世代間格差、食の嗜好多様化など多くの課題が存在します。今回のパネルディスカッションでは、魚介類消費が少ない若年世代、子育て世代に焦点を当て、「選択されない理由、選択する条件」など、パネラーとともにネットワーク会員ほかの来場者を交え意見交流、討論をします。流通業界からは消費者の魚類消費傾向についてお話し頂き、ネットワーク会員でもある経営コンサルタントの方からは、量販店店頭などでどのようなことが起きているのか、その実情と変化のお話しを頂き、ネットワーク活動に関して意見交流、魚食普及活動の取り組みについて討論をします。

コーディネーター：二瓶 徹 (財団法人食品産業センター振興部主事)

パネリスト：葉 美佐子 (主婦)

山口 晃汰 (学生/法政大学社会学部)

細川 良範 (ネットワークメンバー、経営コンサルタント)

池田 智子 (コープとうきょう組合員理事)

宮本 博紀 (おさかな食べようネットワーク事務局、
(社)大日本水産会)

平成 24 年 月 日

シンポジウム参加申込書

シンポジウム名： 「おさかな食べようネットワーク」交流・シンポジウム

開催日時： 平成 24 年 6 月 29 日（金） 13:20-16:30（開場：13:00）

開催場所： 石垣記念ホール

（東京都港区赤坂 1 丁目 9-13 三会堂ビル 9 F）

参加希望者： 申込みされる方の氏名、参加人数を以下の表に記載、ご連絡をお願い致します。ただし、席数が限られますので、参加できない場合もございます。その節はご容赦をお願い致します。

申込み団体・企業名	
申込者名	
参加人数	
連絡先	
TEL/FAX 番号	
E メールアドレス	

参加申込書送付先： FAX の場合 03-3582-2337

（社）大日本水産会 魚食普及推進センター

E メールの場合： miyamoto@suisankai.or.jp

（社）大日本水産会 魚食普及推進センター

問合せ先： TEL 03-3585-6684

（社）大日本水産会 魚食普及推進センター